

起業家支援財団 事務局通信 NO.4

発行日 平成 21 年 2 月 3 日 (火)
発行 財団法人起業家支援財団
事務局 〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-12-1
TEL 045-306-5574 FAX 045-350-2617
www.shienzaidan.or.jp info@shienzaidan.or.jp
発行責任者 菱山昌洋 編集 治田友香



学生起業塾(第7回)の様子。組織経営に欠かせない資金について学んだ。

先日、ある方との面談の中で、大学入試センター試験の現代社会の設問に『ベンチャービジネス』『社会起業家』という言葉が登場したことが話題になりました。昨今の厳しい経済情勢の中で、ベンチャー起業家や社会的課題の解決に向けた取り組みが従来にも増して関心が高まっていくものと思われれます。

財団はお蔭様で3期目に入りました。奨学金給付事業をはじめ、ベンチャー起業家への支援、アントレプレナー教育の普及などを推進してまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。(専務理事・菱山)

◆◆◆事務局報告◆◆◆

■「ビジネス感性を磨く経営道場'08」受講生からご好評をいただいています

10月10日から11回のカリキュラムで、「経営道場'08」を開講しました。各回、受講生の方々に熱心にご参加いただいています。参加者層は23歳から48歳という幅広い構成となっています。

この事業は、経営者の方には自社の経営を見直すきっかけを、これから経営者になれる方には経営者になるための準備をするきっかけを提供することによって、経営力を磨いていただき、地域にとどまらず日本の経済に寄与することを目的としています。

経営道場の進め方は以下の通りです。

- 経営道場のカリキュラムは、「経営者の心構え」と「経営戦略」の2つのテーマから成り立っています。
- このうち「経営者の心構え」については、現役の経営者や学識者の方々の講演と質疑応答によって、参加者の皆様方ご自身で熟考していただきます。一方的な講義形式をとっていません。
- 「経営戦略」については、「自社の経営課題の確認」→「講義・演習を通じて課題解決方法を学ぶ」→「解決策を自分で書いて発表する」という順番で行います。
- 参加者の方々が自社の経営課題の解決策を考えるに当たっては、参加者全員で考え、討論します。



生涯600ものプロジェクトを遂行したといわれる二宮尊徳。作家・新井恵美子氏には『二宮尊徳の経営哲学』をテーマにご講演いただいた。

TOPICS 1 『かながわビジネスオーディション2008』の最終選考会で(11月20日実施)、当財団第1期奨学生の速水浩平さん(慶応義塾大学)が優秀賞を、NPO創業支援機構第1期奨学生の平井祐理さん、宮崎弘美さんも入賞しました。今後も引き続き、活躍されることを期待しています。

加えて、トータルコーディネータの大島昭浩氏〔横浜銀総合研究所/日本工業大学教授〕と受講生との本音かつ本気のやり取りがこの経営道場の肝となっています。回を重ねるごとに、受講生間、そして受講生とトータルコーディネータ間の自由闊達なコミュニケーションが深まっており、最終回の受講生による発表が今から楽しみです。(3月8日(日)非公開で行います)

■平成 20 年度学生起業塾 実施報告

学生起業塾では、各回、先輩起業家による講演と奨学生によるプレゼンテーションを行っています。かながわ県民センターにて実施しました。

【第 6 回】

講演：虎岩雅明氏〔NPO 法人 TRYWARP 代表理事〕
『起業という進路～はじまりは資本金 0 円～』
＜参加奨学生：財団 11 名・NPO 創業支援機構 1 名＞

千葉大学在学中から起業した虎岩さんからは、起業に至った経緯、事務所を構えるためにかかる経費をゼロにするという目標を掲げた後、いかにその目標を達成したかなどについて、時に笑いを誘いながら明快にお話をいただいた。

地域 SNS「あみっぴい」の運営は、特に奨学生の関心をひいたようでした。「出会い系」ではなく「出会った系」、「情報共有」よりも「気持ちの共有」、SNS そのものの活性化ではなく地域活性化を目的とするなどのコンセプトが、「街のこんにちはの創造」「異世代間交流」を実現した偉大さに感心させられた。

参加した奨学生からは、笑顔が印象的だったとのコメントが多く寄せられ、好感度は抜群でした。自分がいなくても回る組織を目指すべく、若い社員に課題を与えながらその成長を見守る取り組みを始めたという、さわやかな若き経営者の今後の活躍にも目が離せません。

【第 7 回】

講演：現役銀行マンと、米田佐知子氏〔NPO 法人 神奈川子ども未来ファンド事務局長〕による講演
＜参加奨学生：財団 15 名・NPO 創業支援機構 5 名
・聴講生 1 名＞

まず、現役銀行マンからは「お金（金融）とのお付き合い」というテーマで、お金の重要性、銀行のビジネスモデル、ベンチャーキャピタルと銀行の違い等をご自身の経験を交えながらお話いただいた。

続いて、子ども・若者の育ちや子育てを社会で支えるための市民基金、「神奈川子ども未来ファンド」の米田さんからは、現在の活動に至る経緯をと、ファンドの活動を通して整理した資金源の特徴など事例を挙げながら熱く話された。

一方は営利事業を、他方は非営利事業（参加する構成員に利益の分配をしない事業。利益をあげてはならないという意味ではない）を支援する側からのお話でしたが、共通点も多々あった。人との出会いの重要性、支援者や資金提供者の期待を裏切らないためにどうあるべきかを考えさせられた一時だった。

TOPICS 2 当財団の第 2 期奨学生を採用決定しました！

24 名が新たなメンバーとして加わりました。すでに学生起業塾にも参加しています。選考の際に提案された事業構想のタイトルや概要は近々 WEB サイトに掲載いたします。

【第 1 期奨学生成果報告会のお知らせ】

平成 20 年度学生起業塾のしめくりとして、奨学生による成果報告会&特別講演会を行います。

奨学生と当財団理事・評議員の方々に加えて、起業・創業支援機関関係者との交流の場としたいと思っています。ふるってご参加ください。詳細は別途ご案内しますのでご予定いただくと幸いです。

日時 3 月 2 日（月）15：00～18：00
場所 関東学院大学 関内メディアセンター
〔横浜メディアビジネスセンター 8F〕

■平成 20 年度第 2 回通常理事会ならびに通常評議員会を開催

昨年 12 月 17 日、ホテルキャメロットジャパン（横浜）にて標記の会議を行い、次の議事が満場一致で承認されました。

- (1) 平成 21 年度の事業計画及び収支予算について
- (2) 中期運営計画策定委員会の設置について

TOPICS 3 当財団の河村幹夫理事が

『 Doyle とホームズを「探偵」する』（日経プレミアシリーズ）を出版されました。大人の目線で読めるホームズ物語の再発見を体験してみたい方はぜひご一読を。

また、理事のうち、後藤芳一氏〔経済産業省製造産業局次長〕は諸般の事情により、当財団理事を退任されましたのでご報告します。

なお、昨年 12 月から施行された公益法人制度改革関連法に伴い、当財団として公益もしくは一般財団法人に移行を検討し、かつ財団の組織基盤の確立と中期運営計画を策定するため、中期運営計画策定委員会を設置し、多方面からの意見交換いただき、財団活動の基盤整備を進めていきます。

平成 21 年度第 1 回通常理事会および第 1 回通常評議員会は、2 月 24 日（火）、ホテルキャメロットジャパンにて行います。

編集後記

- 昨年度（平成 20 年度）は事務局にとって瞬く間に過ぎた 1 年でした。すべてが新しい試みであり、試行錯誤の繰り返しでした。財団の活動への理解者や支援者が少しでも多くなることを願いつつ、時代の流れをキャッチし常に挑戦する「ベンチャー財団」でありたいと思っています。
- 第 2 期奨学生が新たに 24 名加わりました。先日の学生起業塾では、第 2 期奨学生に事業構想を発表してもらい、発表内容に対して濃密な意見交換が行われました。今年度は、奨学生（OB・OG も含む）と財団関係者が交流できる機会を積極的につくっていきたく考えています。アイデア・ご要望がありましたら事務局までお寄せください。